

公表

令和7年度 事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|---------------------------|-----|---------------|
| ○事業所名 | 発達支援室kodomo戸塚(単位1) 児童発達支援 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和8年 1月 13日 | | ～ 令和8年 1月 31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 27人 | (回答者数) 19人 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和8年 1月 13日 | | ～ 令和8年 1月 31日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 9人 | (回答者数) 9部 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年3月16日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|--|
| 1 | 保護者の方が安心して相談できる場所であること | 保護者の方が相談しやすいよう、お迎え時のフィードバックで対面で話す機会を作っている。小さな相談事もしっかりと伺い、その場で時間をとっての対応の他、電話相談や面談なども行っている。 | 保護者の方の相談に対応できるよう、職員間で話し合ったり受講した研修内容をスタッフ間で共有し学びあいながらスキルアップを図っていく。また職員間で情報共有することを心掛け安心して相談できる環境を整えていく |
| 2 | お子さまが安心して通える場所であること | 温かな雰囲気でお子さまと接するようスタッフ一同心掛け、お子さまの気持ちに寄り添いながら、できたことは大いにほめ、お子さまにとって安心して楽しく過ごせる環境にしている。 | お子さまの興味関心をくみ取りながら無理なく楽しく学べるようなカリキュラムを取り入れていく。達成感を得られるような課題設定を行い日々自信を積み上げていけるように支援していく。 |
| 3 | 個別療育や運動遊び等、多岐にわたるカリキュラムを取り入れお子さま一人一人に合わせた内容を行っていること | 5領域の課題にそれぞれ取り組めるよう、バランスよくカリキュラムを構成している。個別ではお子さまの様子に合わせて課題を作り、自信を積み上げていけるよう支援している。 | 個別支援計画に基づき、お子さまに合わせた療育を常に考える視点を持てるよう、職員間で情報共有をしながら支援にあたっていく。 |

| | 事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|--|
| 1 | きょうだい児支援などの交流やペアレントトレーニングなどの保護者支援 | きょうだい児が参加できる行事がない。また保護者にペアレントトレーニングなどをする為のスキルがまだ足りていない。 | きょうだい児も参加できるようなイベント等も行っていきたい。また、法人の専門スタッフと連携しながら、保護者の方が必要としている情報を提供できるよう日々支援力の向上に努めていく。 |
| 2 | 活動スペースが限られていること | 1部屋の中で運動遊びや集団カリキュラム、個別療育などに対応することが必要になり、視覚的な刺激が多くなってしまいやすい。 | 運動遊びの際は広々使い、個別療育の時はパーティションで半個室を作ったり、集団の際に視覚的な刺激を減らせるようにパーティションを有効活用していく。また色付きマットを利用しエリアを分ける視覚的な支援も取り入れていく。 |
| 3 | こどもに分かりやすい環境の構造化が足りていない。 | 玄関などの下足場所が明確化されていなかったり、支度や準備の手順が分かりにくくなってしまっている。 | 玄関内で靴を履く場所と靴を脱いで歩く場所を明確化し、衛生的に室内に入れるようにする。また整理整頓と清掃を心掛け、写真などの視覚情報も取り入れながらお子さまに分かりやすい環境づくりをしていく。 |